

短 報

「退院調整看護師養成プログラムと活動支援」 研修プログラム修了者に対する交流会の報告

田代 真理¹⁾ 山田 雅子¹⁾ 宇都宮宏子²⁾ 吉田 千文³⁾
長江 弘子⁴⁾ 内田千佳子¹⁾ 廣岡 佳代¹⁾ 福田 裕子¹⁾

Exchange Gatherings for Nursing Graduates of the Discharge Planning Continuing Education Program

Mari TASHIRO, RN, MSN¹⁾ Masako YAMADA, RN, PHN, MSN¹⁾ Hiroko UTSUNOMIYA, RN²⁾
Chifumi YOSHIDA, RN, PhD³⁾ Hiroko NAGAE, RN, PHN, PhD⁴⁾ Chikako UCHIDA, PHN, MSN¹⁾
Kayo HIROOKA, RN, MSN¹⁾ Yuko FUKUDA, RN, MSN¹⁾

[Abstract]

Exchange gatherings for nurses who have completed the continuing education program in discharge planning have been held once a year since 2009 at the St. Luke's College of Nursing Research Center for the Development of Nursing Practice. The purpose of these exchange gatherings is to strengthen linkages among participants, empowering them to seek solutions to problems in relation to discharge planning they have faced. The number of participants was 14 at the first meeting, 38 at the second meeting, 34 at the third meeting, and 29 at the fourth meeting, making a total of 115 people who have participated to date. At the gatherings, each participant reports on his or her efforts toward discharge planning. By receiving feedback from other participants and facilitators about the issues related to discharge planning, participants can clarify their own challenges, and be empowered to return to their respective workplaces. Ongoing support for the nurses who have completed the Discharge Planning Nurse Training Support Program is vital, and these exchange gatherings are an effective way to do this.

[Key words] discharge planning nurse, continuing education, exchange gatherings

[要 旨]

聖路加看護大学看護実践開発研究センターでは、2009年より「退院調整看護師養成プログラムと活動支援」研修の修了者を対象とした交流会を年1回開催している。交流会開催の目的は退院調整看護師間のネットワークを強化することと、退院調整看護師養成プログラム修了者が直面している問題への解決方法を探ること、参加者をエンパワーすることである。これまでの参加者数は、第1回目14名、第2回目38名、第3回目34名、第4回目29名の延べ115名である。参加者は、退院調整看護師養成プログラム修了後の各自の取り組みについて交流会で実践報告を行い、他の参加者や教員からフィードバックを受けることで、自らの新たな課題を明確化し、エンパワーされて帰っていく。退院調整看護師養成プログラムの修了後も継続的なサポートは必要であり、その一手段として、交流会は有用であった。

[キーワード] 退院調整看護師, 継続教育, 交流会

-
- 1) 聖路加看護大学看護実践開発研究センター St. Luke's College of Nursing, Research Center for Development of Nursing Practice
 - 2) 在宅ケア移行支援研究所宇都宮宏子オフィス Utsunomiya Hiroko Office
 - 3) 千葉県立保健医療大学 発展看護学 Chiba Prefectural University of Health Sciences
 - 4) 千葉大学大学院 エンド・オブ・ライフケア看護学 Chiba University, Graduate School of Nursing

2012年11月8日 受理

I. はじめに

わが国は超高齢多死社会に向けて、医療連携による地域完結型医療提供体制の推進を方針と掲げており、患者は療養経過に沿って自宅を含む様々な療養の場を移動しながら療養を継続していくことが求められている。このような状況の中で患者とその家族が望む療養生活を継続していくことができるよう、退院に関する意思決定を支援し、入院中から退院後の療養生活における課題をアセスメントし、課題解決のために地域資源や施設内外の様々な職種、機関の活動を調整する退院調整看護師の活躍が期待されている。しかし、退院調整看護師の多くは、その活動において退院支援を各組織でシステム化していく方法や、多職種との連携の困難さ、倫理的な葛藤などを抱え、身近に役割モデルなどがいない環境の中で、試行錯誤を繰り返しながら日々の活動を行っている。そこで聖路加看護大学看護実践開発センターでは、退院調整看護師養成研修の基礎編を終了し、専任で退院調整看護を担っている看護師を対象に「退院調整看護師養成プログラムと活動支援（以下、退院調整看護師養成プログラム）」を2008年度より企画し、毎年開催している。この退院調整看護師養成プログラムは基本的に2週間毎の5日間コースで構成されており、研修内容は表1に示した通りである。例年、受講者は全国各地から集まり、高い満足感を得て、5日間の研修を終えている。しかし、そういった退院調整看護師養成プログラム修了者に対するサポートがないため、退院調整看護師のネットワーク作りも考え、交流会を開催した。本報告は、第1回目から第4回目までの交流会の実施報告である。

II. 交流会の実際

1. 交流会開催の趣旨

交流会は退院調整看護師養成プログラム（11月下旬～1月中旬）修了後、6ヵ月ほど経過した時期に開催した（2009年7月9日〈木〉、2010年5月22日〈木〉、2011年5月26日〈木〉、2012年6月14日〈木〉）。この時期を

選定した理由は、受講者が退院調整看護師養成プログラムで学んだことを医療現場に戻り実践した結果、研修時に抱えていた課題が達成できたり、あるいは他施設の方法をモデルにして自施設でも行ってみたいがうまくいかない、または新しい障害が出てきた等、新たな悩みが出てくる時期ではないかと考えたからである。開催曜日は退院調整看護師養成プログラム同様、退院調整の業務が立て込む週明けや週末を避け、木曜日とした。時間は九州や東北地方などの参加者もいるため、全国各地から日帰りでも集まることができるよう、午後1時から4時といった時間帯とした。場所は、退院調整看護師養成プログラム同様に聖路加看護大学看護実践開発研究センターで行っている。

2. 交流会の対象者について

対象者は、聖路加看護大学看護実践開発研究センターにおける「退院調整看護師養成プログラム」の受講修了者である。この退院調整看護師養成プログラムは年1回11月～翌年1月の間に5日間かけて開催しており、定員は40名である。参加希望者は年々増加傾向にあり、ここ数年は、募集開始後すぐに定員に達するため、参加を断っている状況である。退院調整看護師養成プログラム修了者は、2008年度41名、2009年度43名、2010年度43名、2011年度42名の計169名であった。交流会開催のお知らせは、各年度の退院調整看護師養成プログラム修了者にはがきやメール、FAXにて行っている。第1回目、第2回目は修了者個人にはがきを出して周知したが、第3回目からは登録メールアドレスへのメールの送信や、所属先へのFAX送付にて交流会案内の連絡をした。回を重ねるごとに修了者同士のメーリングリストなども作られており、それを活用したり、各年度の修了者の中で連絡係が決まり、交流会案内の連絡・周知を依頼できるようになった。

これまでの交流会参加者数は、第1回目14名、第2回目38名、第3回目34名、第4回目29名の延べ115名であった。全体的に、当該年度の退院調整看護師養成プログラム修了者の参加が比較的多い傾向が見られる。

表1 退院調整看護師養成プログラムの研修内容（2011年度実績より）

第1日	・退院調整の今日の動向について理解し、退院調整看護師として自ら果たす役割を考察する ・退院調整活動における課題を共有し、今後の研修で取組む学習課題を明確にする
第2日	・診療報酬制度に基づき、在宅療養に必要な医療機器、薬剤、衛生材料、医療材料の調達方法とその課題について理解する ・在宅における診療報酬と安全でQOLを重視した医療を行うための課題について学ぶ
第3日	・退院調整に関連する倫理的ジレンマとその解決方法について学ぶ
第4日	・合意形成を目指した多職種連携の方法としてのカンファレンスの企画・運営方法を学ぶ ・病棟・外来看護師との連携など部署間連携の方法について学ぶ
第5日	・地域完結型医療提供体制を組織するための方法について考え、戦略を検討する

第3回目以降の参加者数が減少してきているのは、修了者同士のメーリングリストに登録をしていない者や、退院調整看護師養成プログラム修了後の連絡先が不明の者が増加してきたため、連絡が修了者全員に行き届いていないこと、本プログラム以外でも退院調整看護師のネットワークができてきたこと等が考えられる。

3. 交流会運営の方法について

交流会開催の目的は、退院調整看護師間のネットワークを強化することと、退院調整看護師養成プログラム修了者が直面している問題への解決方法を探ること、参加者をエンパワーすることである。

2009年第1回目から各回における交流会の内容は、退院調整看護師養成プログラム修了後の参加者各自の実践報告が中心である。それぞれグループに分かれ、各自が自らの取り組みについて実践報告をした後に、参加者やプログラム運営者からフィードバックを受けるという流れとなっている。また、机の配置やグループワークの仕方、各自の発言に対するポジティブなフィードバックなど参加者が語りやすい、和やかな雰囲気を作り、環境設定にも運営上の注意を払った。

第1回目は参加者も14名だったため、まず、参加者全員が退院調整看護師養成プログラムの修了後に実施したことを5分（質疑応答2分含む）で発表し、近況報告をしながら情報共有をした。その後、2つのグループに分かれて今後の退院調整看護師としての活動の方向性について30分間グループ討議をし、各グループの発表後、参加者、主催者からのコメント・アドバイスをを行った。2つのグループにはファシリテーターが数名加わった。

第2回目は参加者が38名と増えたため、それぞれの活動を全員で共有するのは時間的に困難であったため、最初から参加者を5グループに分けて、各グループ内で退院調整看護師養成プログラム修了後の活動報告について情報共有し、グループ討議を行った。各グループにはファシリテーターを1名配置し、その他、3名の教員がフリーな立場で各グループを回り、グループ討議が活発化するようにフォローした。

第3回目は2011年3月11日の東日本大震災後の開催だったため、退院調整看護師養成プログラム修了後の活動の様子について共有する以外に、「東日本大震災に関する退院調整看護師の対応について」をテーマとして取り上げた。交流会への参加申込時に各自に東日本大震災に関する退院調整・地域連携についてコメントを書いてもらい、コメントの内容を分析した結果、①災害時の人工呼吸器、吸引器などのバッテリー問題や医療機器の退院時手配や外来医療機器利用患者の把握に関することなど「医療機器への対応について」、②震災後の外来の運営の仕方や医療処置のある患者、独居の在宅療養者への

対応など「外来患者への対応について」、③主に被災地における退院後の自宅がない、退院先が避難所といった場合の「退院先の問題」、④透析患者の受け入れや地区を超えた医療的サポートのあり方など「被災者の受け入れについて」、⑤被災患者のせん妄の増強や認知症の増悪などといった病状の悪化に関することなど「被災者の健康問題」、⑥安否確認や物品調達方法など具体的な地域ネットワークの作り方や災害対策マニュアルのことなど「災害時の医療システムに関する課題」といった6つに分類できた。

第3回目は、各自の関心が最も高いグループに分かれてもらい、それぞれの内容についてグループ討議を行った。各グループにはファシリテーターが1～2名加わった。東北被災地からの参加者もあり、自施設の地域を超えて対応していくことの必要性、災害時の退院調整看護師としての対応について様々な視点から討議がなされた。

第4回目は2008～2011年度修了者までと参加者が多岐にわたり、交流会へのニーズも様々となってきたため、参加申込時に退院調整・退院支援に関して話し合いたいテーマをそれぞれに3つずつ提出してもらった。

その内容をまとめた結果、①がん患者、独居老人等の退院支援、②外来での地域連携システム、③複数の訪問看護ステーション及び介護施設などの看護連携、④多職種間での協働と役割分担、⑤電子カルテを用いた退院支援システム、⑥退院調整・退院支援における看護の評価方法について、⑦報酬改定後の取り組みについてと、7つのテーマに分類できた。第4回目の参加者は29名と予想より少なかったため、全体で自己紹介をした後、7つのテーマごとに全体討議をしながら、それぞれの体験や取り組みを語ってもらい、考えを深めていった。全体の司会は退院調整・退院支援に造詣の深いプログラム運営者が担当し、その他のスタッフも全体討議に交じって、時間の許す限り議論を行った。テーマごとに参加者から、自施設での課題や取り組みにおける工夫について意見が出された。

4. 交流会後の参加者の反応

毎回、交流会参加者からは「参加してよかった」「他の人の頑張りを聞いて、自分も勇気をもらった。また明日からがんばろうと思った」「他の人の活動の話を聞くことで、自分の施設でも取り入れてみよう」と参考になった」「他の年度の修了者とも知り合いになれた」といった声が終了後に聞かれていた。

2012年開催の第4回目は、客観的評価と今後の交流会のあり方について検討するため、終了後にアンケートを行った。アンケート記入に際してはアンケートへの協力は自由意思であること、アンケート提出の有無によって

何ら不利益を被ることはないこと、アンケート結果使用の許可について口頭で説明を行い、同意を得た。その結果、25名(86%)より回答があった。交流会について、“大変有意義だった”17名(68%)、“有意義だった”7名(28%)であり、両方合わせると96%の参加者が“有意義”と回答していた。理由としては、「他施設の取り組みや工夫が聞けた」「具体的な実践例が聞けた」といったこと等があげられていた。また、交流会の内容は今後の退院調整活動に活かせるかどうかの問いに対しては、ほとんどの者が“活かせる”と回答し、開催時期についても“適切”との回答が多かった。ただ時間に関しては、“適切だった”と回答した者12名(48%)に対して、“まあまあだった”と回答する者も13名(52%)であり、半数は時間が不足していると感じていたことが分かった。さらに、今後も今回のような交流会の開催を希望するかどうかの問いに対して、“希望する”と回答した者は24名(96%)であった。理由として、「情報交換になる」「リフレッシュにつながる」「刺激になる」「定期的で開催して、悩みなどを相談したい」「色々な人の意見を聞くことができる」「同じ役割を担う者同士の交流は貴重」「コンサルテーションを受ける場が少なく、常にジレンマを感じながら仕事をしているから」といったような意見があげられていた。

5. 今後の交流会のあり方について

参加者はそれぞれ、交流会の中で自分の経験を語り、他者の活動を聞くなかで、自施設における課題を明確化し、明日の実践場面につながるヒントを得ることができていた。そして、そのことによって退院調整看護師自身がエンパワーされ、次のステップへと進んでいく手助けとなっていたのではないかと考える。しかし、交流会のあり方や内容は適宜、変革していく必要がある。災害時の対応や診療報酬の改定などその年の関心事や、退院調整看護経験年数など時間の流れとともに退院調整看護

師養成プログラム修了者が望んでいる活動支援内容も変化しているからだ。そういった状況を加味しながら退院調整看護師のニーズに合ったテーマを今後も取り上げていく必要があるだろう。また、毎年の退院調整看護師養成プログラム修了者がより強固なネットワークを形成していくために、聖路加看護大学看護実践開発研究センターがサポートする交流会の継続とともに、さらに修了者同士のメーリングリストの活用や修了者の自主的・主体的な交流会・勉強会の開催などを今後は期待したい。

Ⅲ. おわりに

今回、2009年より毎年開催してきた退院調整看護師養成プログラム受講修了者に対する第1～4回目までの交流会について振り返った。この交流会は、退院調整看護師間のネットワークを強化し、退院調整看護師養成プログラム修了者が直面している問題への解決方法を探り、その活動をエンパワーすることを目的として開始したものであったが、参加者の声から、その目的は概ね達することができていると考える。

はじめにも述べたように、地域完結型医療提供体制の中で、退院調整看護師は重要な役割を担っているが、その役割モデルとなる者は少なく、日々の活動において多くのジレンマを抱えながらも相談相手が得られにくい環境に置かれている。そういった状況を鑑みると、退院調整看護師養成プログラムの修了後も継続的なサポートは必要であり、その一手段として、交流会は有用だと考えた。

参考文献

- 1) 山田雅子, 吉田千文, 長江弘子他. (2010). 退院調整看護師の実践力向上を目指した教育プログラムの開発. 聖路加看護大学紀要, 36, 55-58.